

「トランプ大統領と現在の国際政治情勢：世界は何処へ？」



講師：神戸大学大学院法学研究科教授 峯原 俊洋

於：此花会館 梅香殿3階大ホール

平成30年の7月7日（土）七夕の日であるが、近畿地方は前日来降り続く大雨の影響でJR大和路線を始め交通網にかなりの影響が出た。その中での講演会、人が集まるか不安の中で開場した。シニアの参加者に交じり学生らしい若者も来ている、先生のゼミ生かもしれない。スタッフも含めて120名の出席者が確保でき講演会が始まった。

圓井部門長、濱面代表の挨拶がありいよいよ峯原先生の登壇である。

最初のテーマは「類例なきトランプ大統領」。なぜトランプ大統領が実現したか？その答えは2008年のリーマンショック以降のアメリカ国内の格差が彼の当選を可能にした。トランプ氏は公職についたこともなく、

軍歴すらない史上初めての大統領、実業家としてもほとんどの事業が破綻して、単に直観に依拠した投機的な行動を重視する不動産屋と批評された。大統領の支持率も就任1ヶ月後で44.3%（但し、共和党内では支持率89%）、現在の支持率は42.2%と平均で約40%と低止まりしている。

2つ目のテーマは「有言実行の政治姿勢」、これにはアメリカの政治の特異性も大きい。議会の承認なしに大統領令で法律化が可能である。現在までに77本の大統領令に署名（オバマは59本）した。TPP、NAFTA、パリ協定、貿易はFTA重視、大型法人減税と正に彼の公約を実行している。

この実行力もプアーホワイト（白人低所得層）がトランプならきっと我々の要求を叶えてくれると支持している理由である。トランプ大統領の施策はオバマ大統領の施策の否定である。オバマ大統領の最大の功績、オバマケアすら否定し、大幅に縮小された。外交面ではキューバとの国交も否定し、ギクシャクしている。

3つ目のテーマは「11月の中間選挙の重要性」である。共和党がトランプの政党として生まれ変わるかがポイントである。トランプ大統領の4つの柱として

- ①移民問題 → 不法移民に対する非寛容な政策
- ②司法問題 → 新たな最高裁判事の任命 → 司法までも共和党に偏ってはアメリカにとっては大問題
- ③通商問題 → 関税戦争の勃発、中国だけでなく同盟国も対象にしている。
- ④外交政策 → 北朝鮮、NATO、ロシア → 新たな秩序変革期の到来か？

③④についてはイデオロギーの対立よりも価値観と国益の対立という要素が大きい。中東の混乱は継続 → 米国は国力を漸減、ロシアとの間でシリア問題の取引があるか？ヨーロッパやアジアの新興国をみても民族主義に疲弊感が漂っている。ドイツでは極右勢力のADFが議席の10%を確保し野党第1党となった。「民主主義の衰退と中国の台頭」が今後の課題である → 際立つ中国の存在感。

次に日本の政治に眼を転じれば、「理念なき外交」である。例えば西側諸国から逸脱する対ロ外交、対中配慮に傾斜する日本外交等である。軍事力で見ても自衛隊は世界第5位の實力を備え自衛の域を超えている、国防軍にすべきである。防衛費もGDPの1%枠に拘るべきではない。ドイツですらGDP比1.24%と日本より多い。例えて言えば日本は、軍事力はヘビー級なのに心はバンタム級以下なのである。いつまでも米国の安保体制の下でいいのか、極東地域のリーダーとしての責任はないのかと厳しい口調で話された。

米国は民主主義そのものの超大国で復元力を持っている、11月の中間選挙次第で大きく潮目が変わる可能性も持っているので選挙の結果を注視したいと結ばれた。長年米国で生活され自他ともに許す米国通の先生の言葉だけにうなずける部分も多々あった。運命共同体の日本人の一人として米国の中間選挙を注視していきたいと思う。

講演後のアンケートにはこのような時事問題の講演会を今後も実施して欲しいとの要望が多く寄せられた。

（広報 杉本）

